

## 地域診断とソーシャル・キャピタル(1) 保健師活動の量的調査

埴淵知哉(日本福祉大学地域ケア研究推進センター)・村田陽平(武庫川女子大学関西文化研究センター)・市田行信(三菱UFJ リサーチ & コンサルティング)・平井寛(日本福祉大学地域ケア研究推進センター)・近藤克則(日本福祉大学社会福祉学部)

【目的】健康を規定する社会的な因子の中で、地域の文脈的な要素が注目されている。これに対して保健師は「地域診断・地区診断」といった活動があるように、日々の業務の中で地域とかわり、健康を規定するさまざまな要素を経験的に理解している可能性がある。本研究では、保健師の地域診断力を定量的に評価し、その特徴と可能性を提示したい。特に、健康との関連が議論されている社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)にも注目する。

【方法】A 県 B 半島における 10 市町の市町村保健師(n=71)に対して、2006 年 10 月から 2007 年 4 月にかけてアンケート調査を実施した(配布=留置法、回収=郵送法)。回収数は 70、回収率は 98.6%である。質問項目は、従事年数、地区診断の経験・頻度、現在および過去の担当地区、そして小学校区別にみた各地区の評価である。各地区については、1)個人の健康行動、2)居住・物質環境、3)社会・人間関係、4)活動への反応、5)地域の健康水準の 5 つの側面についてそれぞれ、1(よい)~5(わるい)までの 5 段階での評価を質問した。このうち、ソーシャル・キャピタルに関連すると想定されるのは、3)社会・人間関係と 4)活動への反応である。

【結果】各地区の評価は、従事年数が長くなるほど回答率が高い傾向が確認され、また現在および過去に担当した地区に関しては特に高い回答率を示した。次に地区の評価がどの程度「実態」をとらえているのかを、当該地域を対象に実施された大規模アンケート調査の集計結果と照らし合わせて検討した結果、3)社会・人間関係および 5)地域の健康水準において、相関関係(1%有意)が認められた。そして、5)地域の健康水準を従属変数、残りの 4 変数を独立変数とした回帰分析の結果、全ての変数が有意な関連を示したが、従事年数により「若手」「ベテラン」の二群に分けて分析すると、前者では 3)社会・人間関係との関連がみられなかった。

【考察】本研究の主な知見は、保健師の地域評価において、ソーシャル・キャピタルが健康と好ましい関連を持つと評価されていることと、その把握や健康への影響評価には、従事年数による差がみられること、の二点に要約される。従事年数の差は、単に経験の豊富さを反映したというよりも、実習や日常業務における地域とのかかわりの時代的な変化を示すものと思われる。地域診断力を(再)評価し、世代間の対話や経験知の継承を通じて、地域のソーシャル・キャピタルと健康増進に寄与するような保健師活動を再構築する必要がある。

本研究は、日本福祉大学 21 世紀 COE プログラム研究の助成を受け実施された。